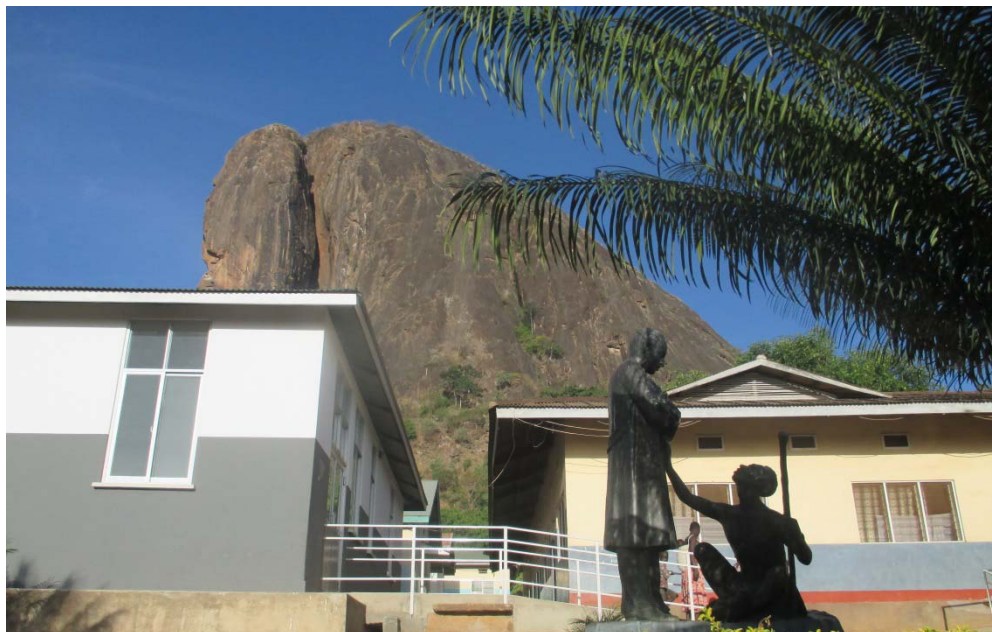


カロンゴ日記 ～伊藤編～ Part.1 3月13日

今回初めてのカロンゴ日記になります。大阪赤十字病院、看護師の伊藤 万祐子です。私は 1月20日から6月18日まで5か月間、ウガンダの北部、アガゴ県、カロンゴという地域にあるアンボロソリ医師記念病院で活動しています。此処へ来て早2か月が過ぎようとしています。毎日がとてもエキサイティングで、過ぎゆく日々の速さに焦りを感じている今日この頃です。

カロンゴの日常を少しお伝えできたらと思います。まずは私の働いている病院を紹介します。



これまでのカロンゴ日記を見たことがある人には、「もう何度も見たわ」と思われるかもしれませんが。毎朝病院の門をくぐるとこの景色が目の前に広がり、雲一つない空をバックにしたカロンゴヒルを見上げながら右下に見えます外科病棟へ向かうのです。大阪はミナミのビルの際間に住んでいる私にとってこの景色は贅沢で仕方ありません。「今日も頑張ろ」と思えるのです。

最近のナンバーワントピックといえば、何といても2015年3月11日に行われた新手術室のオープンセレモニーです。病院スタッフは勿論、これまでカロンゴ事業に関わって来た人にとって、待ちに待った日だと思います。丁度上の写真の左側に見えるのが新手術室です。この新手術室は日本の外務省の草の根プロジェクトの資金援助により作られたものであり、セレモニーには藤田順三駐ウガンダ共和国特命全権大使もお見えになりました。



オープンの一週間前、いや 3 日前までは「掃除が終わらない」「まだ棚が入っていない」「手術台の修理がまだだ」などといった先の見えない状況でしたが、当日朝には入口もかわいくデコレーションされ、何とか(無理やり)形になったのでした。



当日は沢山の人の姿があり、外来で診察を行っているコックス率いるアチャリダンスチームがオープニングから盛り上げていました。



とても味のある旧手術室の入口もデコレーションされています。Theatreの文字もドアの雰囲気も個人的にとっても好きです。しかし最近このドアは突進しなければ開かないほどガタがきており、患者さんの手術迎えに行く度、軽く助走をつけて体当たりしています。

新手術室のオープンセレモニーといっても、あくまで「セレモニー」です。「いつから新手術室で手術するの」と尋ねても誰も分かりません。外科病棟の師長も「アフリカタイムだからね。ゆっくりだよ」との返事。現地の人の手術室なので、こちらばかりが焦らず、気長に構えなければと思っています。